

からのアドバイスをを受けて再度作り直したポスター。



アドバイスどおり、3メートル離れたところから見て確認しながら、一番伝えたいことを大きく、絵も言葉もシンプルにした。最初は自己満足で終わっていた児童だが、プロの視点を取り入れることで、相手意識をもち、誰にでも伝わるポスターを作ることができ、子どもたちも大満足だった。

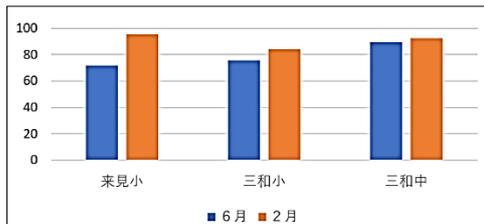
4 研究の成果と課題等

(1) 成果

- ・校区全職員で育てたい子ども像を共有できた。
- ・既存の型や枠にとらわれず単元開発できた。
- ・児童生徒が主体的に学習するための授業の工夫（授業者がファシリテートすること、本物にふれる機会を設定することなど）ができつつある。
- ・校内研修に参加し合うことで、生活科や総合的な学習の時間の校内授業研究会のもちかたの交流ができた。

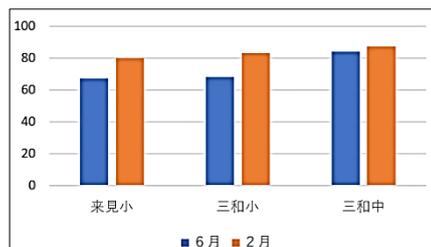
<児童生徒アンケートより>

- ・児童生徒の意識の向上
「友だちと話し合う時、お互い納得のいく考えをつくらうとしています。」という項目で、肯定的な回答が年度当初より上がった。（％）



話し合い活動が充実し、自分たちの思いを出し合いながら、納得解をつくり出そうという意識が向上したと考えられる。

- ・児童生徒の振り返り力の向上
「学習の振り返りをするときには『どこまでわかったか』『学習方法でうまくいったことや失敗したことなどの理由』を考えています。」という項目で、年度当初より、肯定的な回答が上がっている。（％）



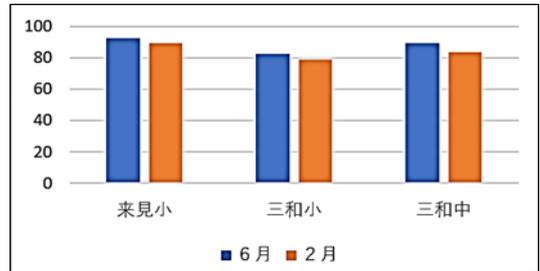
ルーブリックを児童生徒と共有し、振り返りの視点がはっきりした結果だと考える。

(2) 課題

- ・深く広い教科研
- ・児童生徒が中心となる単元構成（単元の導入の方法の工夫など）
- ・コロナ禍での豊かな学びの在り方
- ・ルーブリックの作成や視点

<児童生徒アンケートより>

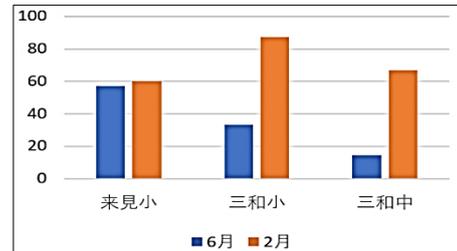
- ・「振り返りをするときには『もっと考えてみたいこと』『もっと調べてみたいこと』『もっと工夫してみたいこと』などを考えています。」という項目の肯定的な回答が年度当初より下がっている。（％）



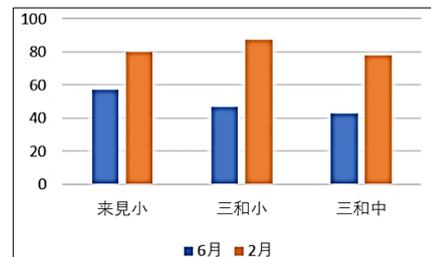
単元構成が要因の一つだと考えられる。児童生徒から次は〇〇をしたい、〇〇をしなければ・・・自然と新たな課題が生まれるような単元構成をしていく必要がある。

<教職員アンケートより>

- ・「指導者も学習教材を集めたり地域へ出て探究活動を行ったりした。」という項目では、年度当初より上がっているが、他項目と比べると低い。（％）



- ・「児童が情報収集の方法を選択し、PCや本を加えてインタビューやフィールドワーク等様々な情報収集活動を行うようにした。」という項目も年度当初より上がっているが、他項目と比べると低い。（％）



コロナ禍で制限された部分も多いと思われるが、まずは指導者が外に出て教科研を行うことが必須である。児童生徒が求めるであろうことを予測し、それに対応できるように準備しておく必要がある。

(3) 今後の改善方策等

- ・教科研をさらに充実させる。
- ・児童生徒が主体的に学ぶ単元構成の工夫（導入の工夫、立ち止まりポイントを作るなど。）
- ・評価の在り方を研究する。